



# もりの森の話

第4話  
十勝西部森林管理署  
東大雪支署  
平門 由佳子

私たちの仕事には「図面」というものが欠かせません。

図面には様々な種類がありますが、いわゆる「地図」のようなものが多いです。林道や林班、樹木の情報が詰まっっていて、業務計画を考えるときや打合せのときなど、図面を囲んで喧々諤々…という様子が職場では時折見られます。

みなさんは普段の生活で「地図」というものをどのように活用しているでしょうか。

近年ではスマートフォンやカーナビが普及し、より身近に、より気軽に地図を活用できるようになりました。行きたい場所を検索すればそこへの道のりだけでなく、口コミや写真も見る事ができます。

その一方で、日常生活で「紙の地図」はあまり見られなくなりました。読み方がわからない人も増えてきているようです。紙の地図では、自分の居場所がコンパスと周りの地形の様子等で判断します。見方を

覚えると「地形」というものを楽しむことができます。

ここでは、山や森においての地図の楽しみ方を紹介していきます。



尾根筋、谷筋を見比べるだけでも、植生等様々な違いがあります。天然林であれば、場所によって樹種が違ふ様子がわかると思います。カバ類、ナラ類など樹種で比べてみると面白いのです。方角によっても、日

当たり方で植生などが変わってきます。

さらに標高を上げ、森林限界を超えるともまた違う風景が見えてきます。急斜面のあと、等高線が緩やかになり台地のようになっているところがあります。行ってみると一面のお花畑。初夏にはチングルマなどの花々が咲き誇ります。



A 初夏のお花畑はまさに「神々の遊ぶ庭(カムイミタラ)」を思わせる

別の場所では草原と岩場が広がり、荒々とした風景がゲートの中の間隙者の気分を思わせます。さらに地図「目」をくわしてみても、少し窪地になっているところがあります。ここは高山帯ではオアシスのような

存在です。雪解け水がたまり池のようになり、場所によっては

エソサンショウウオなどの両生類や水生昆虫を見つけることができます。



B 雪解け水がたまった場所。鳥の水浴びなども見られる

そのほかにも、等高線がぐぐぐとやぐやぐになっていたり、ところに行ってみると…等々、その場所の地質などによっても独特の地形を楽しむことができます。

このように地図の見方を覚えると、山や森を別の視点で楽しむ事ができます。目的地へ行くための手段だけではなく、山へ、森へ訪れる際は地図を片手に楽しんでみてはいかがでしょうか。